

フィンテック産業における協業基盤整備支援事業 補助金交付要綱

7産労総国第 1490 号

令和 8 年 3 月 31 日

(目的)

第 1 本事業は、フィンテック企業が金融事業者等と協業する際、協業先から求められるガバナンス体制やセキュリティ等の要件やその対応に活用できるノウハウ等の情報（下線部について、以下「要件等」という。）を集約し発信することで、両者の協業を促進し、オープンイノベーションを通じた金融のデジタル化を推進することを目的とする。

(用語の定義)

第 2 この要綱において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号の定めるところによる。

(1) フィンテック企業

金融サービスを提供するスタートアップ企業、または金融事業者が提供するサービスの高度化を実現する技術やビジネスモデルを提供する非金融のスタートアップ企業

(2) 金融事業者等

金融商品の販売、助言、商品開発、資産管理、運用等を行う金融事業者や団体に加え、フィンテック企業の金融商品やサービスを活用して、自社事業の高度化を図る非金融の事業会社や団体

(補助対象事業)

第 3 本補助金の交付対象となる事業（以下「補助対象事業」という。）は、フィンテック企業が金融事業者等と協働する際に求められる要件等を集約し、解説集やマニュアル等の成果物（以下「解説集等」という）にまとめ、発信する取組であり、かつ本事業の補助金の交付決定日以降で交付決定日の属する会計年度が終了する日までに実施する取組とする。

(補助対象事業者)

第 4 本補助金の交付対象者（以下「補助対象事業者」という。）は、次の各号に掲げる要件を満たす者とする。

- (1) フィンテック企業や金融事業者等の協業に必要となる要件等に関する情報収集や分析等を通じて解説集等を作成し、対外的に発信することで、その普及を図る者。
- (2) 東京都内に登記簿上の本店又は支店があること。
- (3) 補助対象事業について、都が行う本事業の広報活動に協力できる事業者であること。
- (4) 補助対象事業について、同一年度内に国や他自治体（東京都の他部署を含む。）からの委託や助成を受けていないこと。
- (5) 過年度に都が実施した「フィンテック産業における協業基盤整備支援事業補助金」の交付を受けている場合は、当該交付対象とは異なる補助対象事業を実施する者であること。
- (6) 法令等若しくは公序良俗に反していない又は反するおそれがないこと。
- (7) 反社会的勢力又はそれに関わるものとの関与がないこと。
- (8) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）に係る更生手続の申立や民事再生法（平成 11 年法律第

225号)に係る再生手続開始の申立がなされていないこと。

(9) 東京都(以下「都」という。)からの指名停止措置を講じられているものではないこと。

(10) 税金の滞納をしていないこと。

(11) 過去の業務その他の事情において、都が補助にふさわしくないと判断する事実が存在しないこと。

(補助対象経費)

第5 本補助金の交付対象となる経費(以下「補助対象経費」という)は、補助対象事業に要する次の各号に掲げる経費のうち、都が必要かつ適当と認めるものとし、予算の範囲内において交付する。ただし、消費税及び地方消費税相当額、官公署に支払う費用等、サービスの提供の対価に該当しない経費並びに他の公的補助金や助成金の対象経費とされたものは除く。

また原則として、支払先が補助対象事業者の関係者(例:補助対象事業者の関係会社や役職員)になる等、都が実質的に外部の事業者等への支払に該当しないと判断した費用も、補助の対象外とする。ただし、業界団体等の役員が所属する企業等への支払で、契約書の写し等により、支払の根拠となる契約内容等を確認でき、かつ都が適当と認める経費については、補助対象経費として認める。

(1) 解説集等の作成経費

解説集等の作成に必要となる情報収集や分析、その取りまとめ等に必要となる費用

(例) フィンテック企業や金融事業者等に対する調査や分析に必要となる外注費

(2) プロモーション経費

解説集等の内容について、フィンテック企業や金融事業者等に発信し、その普及に必要となる費用

(例) ① 解説集等の公表やプロモーションに必要となる経費〔印刷費、情報媒体への掲載費等〕

② フィンテック企業や金融事業者が参加する解説書等の内容を発信イベントの開催経費

〔会場費、イベントの運営を外注する場合の外注費、登壇者への謝金等〕

2 補助対象経費は、原則として、第9に規定する交付決定の日から交付決定日の属する会計年度が終了する日までに、契約、利用又はサービスの提供、対価の支払が完了した費用とする。

(補助金額)

第6 補助対象事業1件に対して補助対象経費の2分の1以内で1,000万円を上限とする。算出された額に1千円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てる。

(補助金の交付申請)

第7 本補助金の交付を受けようとする者は、次の各号に掲げる書類を都に提出し、交付申請を行うものとする。

(1) 交付申請書(第1号様式)

(2) 事業及び補助対象事業概要書(第2号様式)

(3) 誓約書(第3号様式)

(4) 補助対象事業者の所在地、代表者を確認できる資料

(5) 補助対象事業者が使用する印鑑等が真正であることを確認できる資料

(6) 補助申請額の根拠となる資料

(7) その他、都が必要と認めるもの

(補助対象事業の選定)

第8 補助対象事業者の選定は、東京都知事（以下「知事」という。）が補助対象事業を公募し、別に定める審査会に諮り、特に優れた案件を選定する。

(補助金の交付決定)

第9 都は、第8の規定により選定した補助対象事業者に対して交付決定を行い、速やかに交付決定通知書（第4号様式）により、本補助金の交付決定額等を交付申請者へ通知する。また、補助金の不交付を決定したときは、不交付決定通知書（第5号様式）により補助金の交付申請を行った補助対象事業者へ通知する。

- 2 補助金の交付決定額は、申請額と一致しない場合がある。また、交付決定にあたり条件を付す場合がある。
- 3 審査内容については公表しない。審査結果については後日通知するが、異議の申立は認めない。
- 4 交付決定額は補助金の上限を示すものであり、都は補助対象事業の完了後、補助対象事業者から行われる実績報告を受け、最終的な補助金額を確定する。

(申請の撤回)

第10 交付決定を受けた者（以下「補助対象者」という。）は、交付決定の内容又はこれに付された条件等に対して異議があるときは、補助金の交付の申請を撤回することができる。

- 2 補助対象者は、前項の規定に基づき補助金の交付の申請を撤回する場合については、第8に定める交付決定通知書が交付された日から14日以内に交付申請撤回書（第6号様式）を知事に提出しなければならない。

(事情変更による決定の取消し)

第11 知事は、補助金交付を決定した場合において、その後の事情変更により特別の必要が生じたときは、補助金の交付決定の全部若しくは一部を取り消し、又はその決定の内容若しくはこれに付した条件を変更することができる。ただし、既に経過した期間に係る部分については、この限りではない。

- 2 前項の規定による補助金の交付決定を取り消すことができる場合は、天災地変その他補助金の交付の決定後に生じた事情の変更により事業の全部又は一部を継続することが不可となった場合に限る。
- 3 第1項の規定による補助金の交付決定の取消しにより特別に必要となった事務や事業に対しては、次の各号に掲げる経費に係る補助金等を交付することができる。
 - (1) 事業に係る機械、器具及び仮設物の撤去その他の残務処理に要する経費
 - (2) 事業を行うために締結した契約の解除により必要となった賠償金の支払に要する経費

(計画変更等の承認)

第12 補助対象者は、交付決定を受けた補助対象事業の内容を変更し実施しようとするときは、あらかじめ都に報告を行い、都が必要と認める場合は、変更承認申請書（第7号様式）を知事に提出し、その承認を受けなければならない。計画変更の承認に当たっては、審査会を実施する場合がある。なお、計画変更に伴う交付決定額の変更は、第9第1項に定める交付決定額の範囲内とする。

- 2 知事は、前項の承認に際して、必要に応じ補助金の交付決定の内容を変更又は条件を付すことができる。
- 3 前項の変更承認申請に伴い、補助対象経費の支払に関する契約変更等を行う場合、契約変更等に関する知事

の承認を受けた後に実施すること。

- 4 補助対象者は、事業を中止又は廃止しようとするときは、その理由（中止の場合は、再開の見通しを含む。）を記載した事業中止・廃止申請書（第8号様式）を知事に提出して、あらかじめその承認を受けなければならない。

（補助対象事業遅滞等の報告）

第13 補助対象者は、補助対象事業が予定の期間内に完了できないことが見込まれるとき、又は補助対象事業の遂行が困難となった場合は、速やかに遅滞（事故）報告書（第9号様式）を知事に提出し、その指示を受けなければならない。

（事業状況の報告）

第14 知事は、補助対象事業の円滑な執行を図るため、必要に応じて補助対象者に対し遂行状況に関して報告を求めることができる。

（事業の遂行命令等）

第15 知事は、補助対象者がこの要綱に規定する内容、交付決定の内容又はこれに付した条件に従い事業を遂行していないと認める場合は、補助対象者に対し、これらに従って事業を遂行させるための措置を講じることができる。

- 2 知事は、補助対象者に対し、前項の規定による措置を講じたのにも関わらず、事業遂行の見込みがないと認める場合は、交付決定を取り消すことができる。

（実績報告及び事業報告）

第16 補助対象者は、補助対象事業が終了したとき又は会計年度が終了したときは、速やかに実績報告書（第10号様式）に次の各号に掲げる書類を添付して知事に提出しなければならない。なお、実績報告書の提出に当たっては、事前に都と協議を行い、実績報告書の内容等について都の確認を受けること。

- （1）補助対象経費に係る契約内容（例：契約に係る金額、期間、提供を受けた役務内容）がわかる資料（申込書、契約書等）及び当該経費の支払を確認できる資料（請求書、振込明細等）
- （2）補助対象事業に関する成果物（解説書等）
- （3）プロモーションの実績がわかる資料
- （4）その他、都が必要と認める資料

（補助金の額の確定）

第17 知事は、第16の規定による実績報告を受けた場合においては、実績報告書の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、補助金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合するものと認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、交付額確定通知書（第11号様式）により補助対象者に通知するものとする。

（是正のための措置）

第18 知事は、第17の規定による調査の結果、補助事業等の成果が補助金等の交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しないと認めるときは、当該補助事業等につき、これに適合させるための処置をとるべきことを命ずることができる。

(補助金の支払等)

第19 補助対象者は、補助金の支払を受けようとするときは、支払金口座情報登録依頼書及び請求書（第 12 号様式）を知事に提出しなければならない。

(交付決定の取消)

第20 知事は、交付を受けた者が次の各号に掲げる事項に該当した場合、交付を受けた者に対して補助金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正な手段により補助金の交付を受けたとき
- (2) 補助金を他の用途に使用したとき
- (3) 交付決定を受けた者（法人その他の団体にあつては、代表者、役員若しくは使用人その他の従業員又は構成員を含む。）が暴力団員等（東京都暴力団排除条例（平成 23 年都条例第 54 号）に規定する暴力団及び暴力団員等）に該当するに至ったとき
- (4) 補助金の交付決定の内容やこれに基づく命令、又はその他法令等に違反したとき
- (5) 補助対象者その他補助要件に該当しない事実が判明したとき
- (6) 都が補助対象事業として不適切と判断したとき

2 前項の規定は交付すべき補助金額を確定した後においても適用する。

3 第 1 項の規定に基づき取消を決定した場合、都は交付決定取消通知書（第 13 号様式）により交付を受けた者へ通知する。

(補助金の返還)

第21 補助金の交付を受けた者は、第 20 の規定により交付決定を取り消された場合、交付された補助金を都へ返還しなければならない。ただし、知事がやむを得ないと認める場合はこの限りではない。

2 補助金の返還に係る事項は、知事が返還請求書（第 14 号様式）により通知する。

(違約加算金及び延滞金)

第22 知事が、第 21 の規定により補助金の返還を命じたとき、補助金の交付を受けた者は、当該命令に係る補助金の受領日から納付の日までの日数に応じ、当該補助金の額（その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納額を控除した額）に付き、年 10.95 パーセントの割合（年当たりの割合は、閏年の日を含む期間についても 365 日当たりの割合とする。）で計算した違約加算金（100 円未満の場合を除く。）を納付しなければならない。ただし、知事が取消しに至る事由においてやむを得ないと認める場合、違約加算金を免除することができる。

2 第 21 の規定により補助金の返還を命じられた者がこれを納期日までに納付しなかったとき、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額に付き年 10.95 パーセントの割合（年当たりの場合は、閏年の日を含む期間についても、365 日当たりの割合とする。）で計算した延滞金（100 円未満の場合を除く。）を納付しなければならない。

(違約加算金及び延滞金の計算)

第23 第 22 第 1 項の規定により知事が違約加算金の納付を命じた場合において、補助金の返還を命じられた者の

納付した金額が返還を命じた補助金の額に達するまでは、その納付金額は、まず当該返還を命じた補助金の額に充てるものとする。

2 第 22 第 2 項の規定により知事が延滞金の納付を命じた場合において、返還を命じた補助金の未納付額の一部が納付されたときは、当該納付の日の翌日以降の期間に係る延滞金の計算の基礎となるべき未納付額は、その納付金額を控除した額によるものとする。

(他の補助金等の一時停止等)

第24 補助事業者等に対し補助金等の返還を命じ、補助事業者等が当該補助金等、違約加算金または延滞金の全部または一部を納付しない場合において、その者に対して、同種の事務または事業について交付すべき補助金等があるときは、相当の限度においてその交付を一時停止し、または当該補助金等と未納付額とを相殺するものとする。

(財産処分の制限)

第25 補助事業者等が補助事業等により取得し、または効用を増加した次に掲げる財産を、補助金等の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、または担保に供しようとするときは、あらかじめ知事の承認を受けさせなければならない。ただし、補助金等の交付の目的、交付額または当該財産の耐用年数を勘案して別に知事が定める期間を経過した場合は、この限りでない。

一 不動産

二 船舶

三 前二号に掲げるものの従物

四 立木

五 工作物、機械及び器具で、知事が指定するもの

六 前各号のほか、補助金等の交付の目的を達成するため特に必要があると認めるもの

(立入調査等)

第26 知事は、この要綱の施工に必要な限度において、その職員に、交付者の拠点等に立ち入り、その業務活動等について、必要な調査又は質問を行わせることができる。

2 前項の規定により立入調査又は質問を行う職員等は、その身分を示す証明書を携帯し、交付者より請求があるときは、これを提示しなければならない。

(補助対象事業の経理)

第27 補助対象者は、補助金に係る経理について補助対象事業以外の経理と明確に区分し、その収支の状況を会計帳簿によって明らかにしておくとともに、その会計帳簿及び収支に関する証拠書類を本事業が完了した日の属する会計年度終了後5年間保存しなければならない。

(補助内容等の公表)

第28 知事は、必要があると認めるときは、交付者の名称、代表者名、補助内容等を公表することができるものとする。

(その他)

第29 この要綱及び別に定める募集要項のほか、補助金の交付に必要な事項については、東京都補助金等交付規

則（昭和 37 年東京都規則第 141 号）及び東京都補助金等交付規則の施行について（昭和 37 年 12 月 11 日付財主調発第 20 号）の定めるところによる。

附則

本要綱は、令和 8 年 4 月 1 日から適用する。